

8 サイバー空間の安全対策について

(1) ネット犯罪への危機感

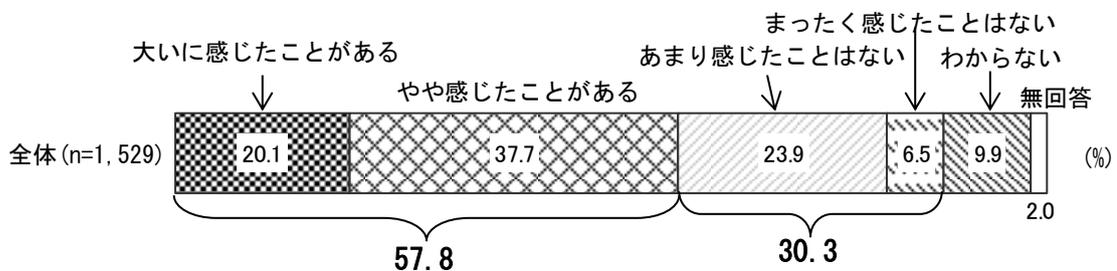
◇『感じたことがある（計）』が約6割

インターネットが県民生活に浸透する中で、コミュニケーション手段がオンラインを中心としたものへ移行するとともに、様々な場面においてインターネットの利用が拡大しています。一方、サイバー犯罪が多発するなど、サイバー空間の脅威が深刻化しており、効果的な対策を検討するため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

(※) サイバー犯罪とは、コンピュータネットワーク上で行われる犯罪をいい、ここでは、「ネット犯罪」と称します。

問40 あなたは、ネット犯罪を身近なものとして感じたことがありますか。(○は1つ)

<図表8-1> ネット犯罪への危機感



ネット犯罪への危機感について、「大いに感じたことがある」(20.1%)と「やや感じたことがある」(37.7%)を合わせた『感じたことがある(計)』(57.8%)が約6割となっている。

一方、「あまり感じたことはない」(23.9%)と「まったく感じたことはない」(6.5%)を合わせた『感じたことはない(計)』(30.3%)が3割となっている。(図表8-1)

【地域別】

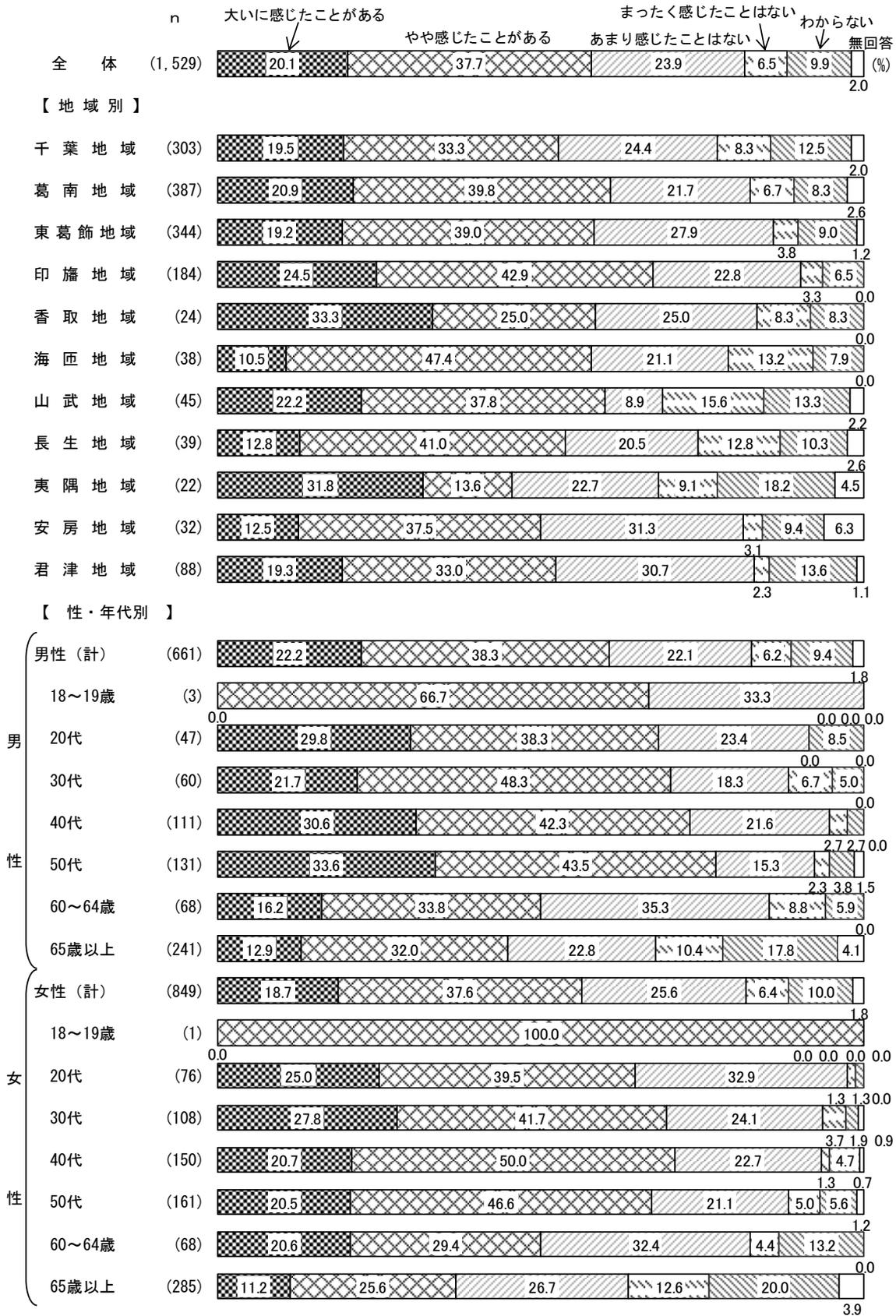
地域別にみると、『感じたことがある(計)』は“印旛地域”(67.4%)が約7割で高くなっている。(図表8-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じたことがある(計)』は男性の50代(77.1%)が約8割、男性の40代(73.0%)が7割を超え、女性の40代(70.7%)が7割、女性の30代(69.4%)と女性の50代(67.1%)が約7割で高くなっている。

一方、『感じたことはない(計)』は男性の60~64歳(44.1%)が4割台半ば、女性の65歳以上(39.3%)が約4割で高くなっている。(図表8-2)

<図表8-2> ネット犯罪への危機感／地域別、性・年代別

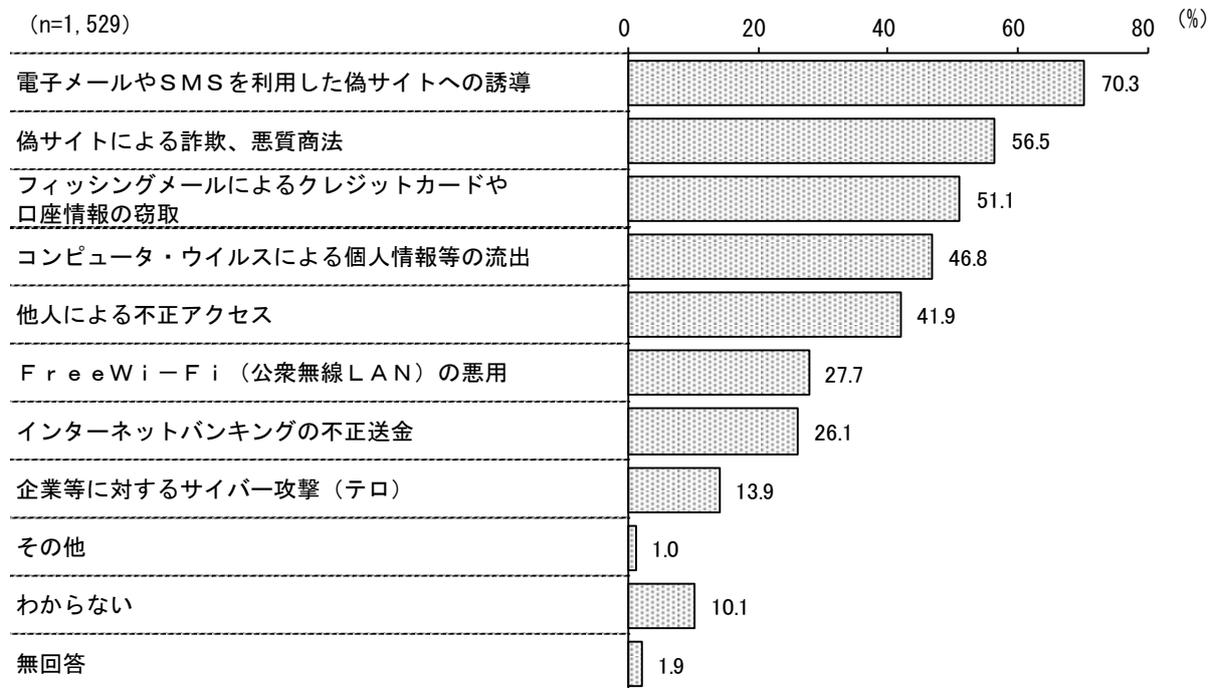


（２）危険性や不安を感じるネット犯罪

◇「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」が7割

問41 あなたは、自身又は家族を含めて、どのようなネット犯罪に危険性や不安を感じますか。
（〇はいくつでも）

＜図表8-3＞危険性や不安を感じるネット犯罪



危険性や不安を感じるネット犯罪について聞いたところ、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」（70.3%）が7割で最も高く、以下、「偽サイトによる詐欺、悪質商法」（56.5%）、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」（51.1%）、「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」（46.8%）が続く。（図表8-3）

【地域別】

地域別にみると、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」は“葛南地域”（56.1%）が5割台半ばで高くなっている。

「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」は“東葛飾地域”（51.7%）が5割を超えて高くなっている。（図表8-4）

【性・年代別】

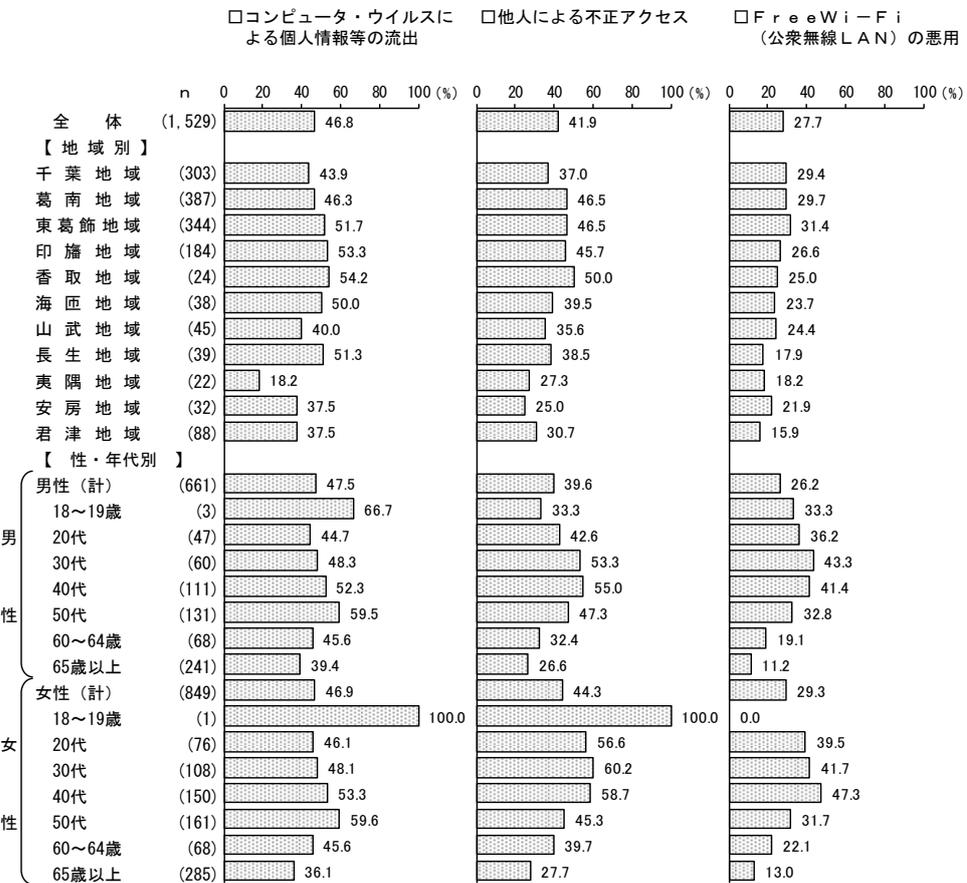
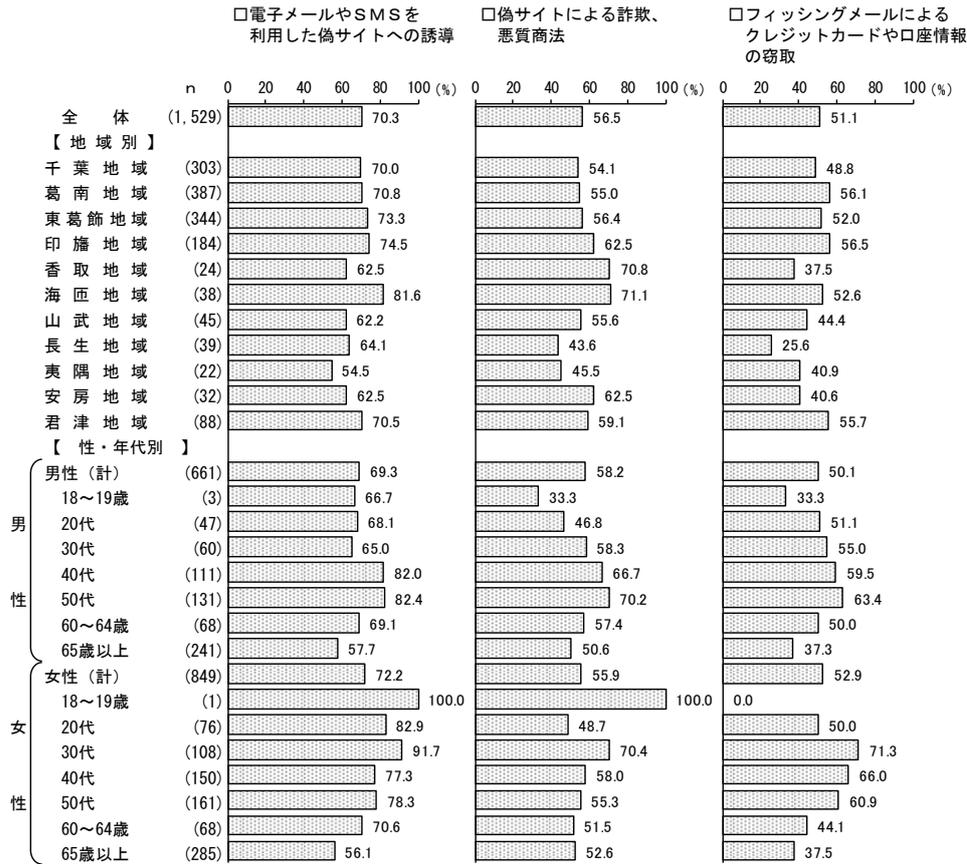
性・年代別にみると、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」は女性の30代（91.7%）が9割を超え、女性の20代（82.9%）と男性の50代（82.4%）、男性の40代（82.0%）が8割を超え、女性の50代（78.3%）と女性の40代（77.3%）が約8割で高くなっている。

「偽サイトによる詐欺、悪質商法」は女性の30代（70.4%）と男性の50代（70.2%）が7割、男性の40代（66.7%）が6割台半ばで高くなっている。

「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」は女性の30代（71.3%）が7割を超え、女性の40代（66.0%）が6割台半ば、男性の50代（63.4%）が6割を超え、女性の50代（60.9%）が6割で高くなっている。

「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」は女性の50代（59.6%）と男性の50代（59.5%）が約6割で高くなっている。（図表8-4）

＜図表8-4＞危険性や不安を感じるネット犯罪／地域別、性・年代別



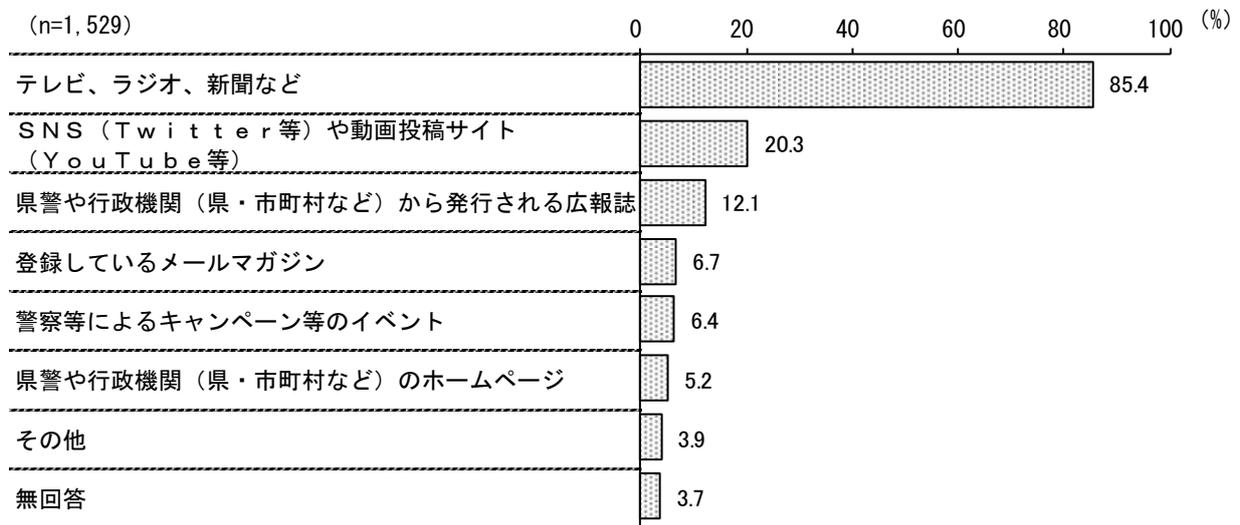
（3） ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法

◇「テレビ、ラジオ、新聞など」が8割台半ば

問42 あなたは、ネット犯罪に関する防犯情報等をどのように入手していますか。

（〇はいくつでも）

<図表8-5> ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法



ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法を聞いたところ、「テレビ、ラジオ、新聞など」(85.4%)が8割台半ばで最も高く、以下、「SNS (Twitter等) や動画投稿サイト (YouTube等)」(20.3%)、「県警や行政機関 (県・市町村など) から発行される広報誌」(12.1%)が続く。

(図表8-5)

【地域別】

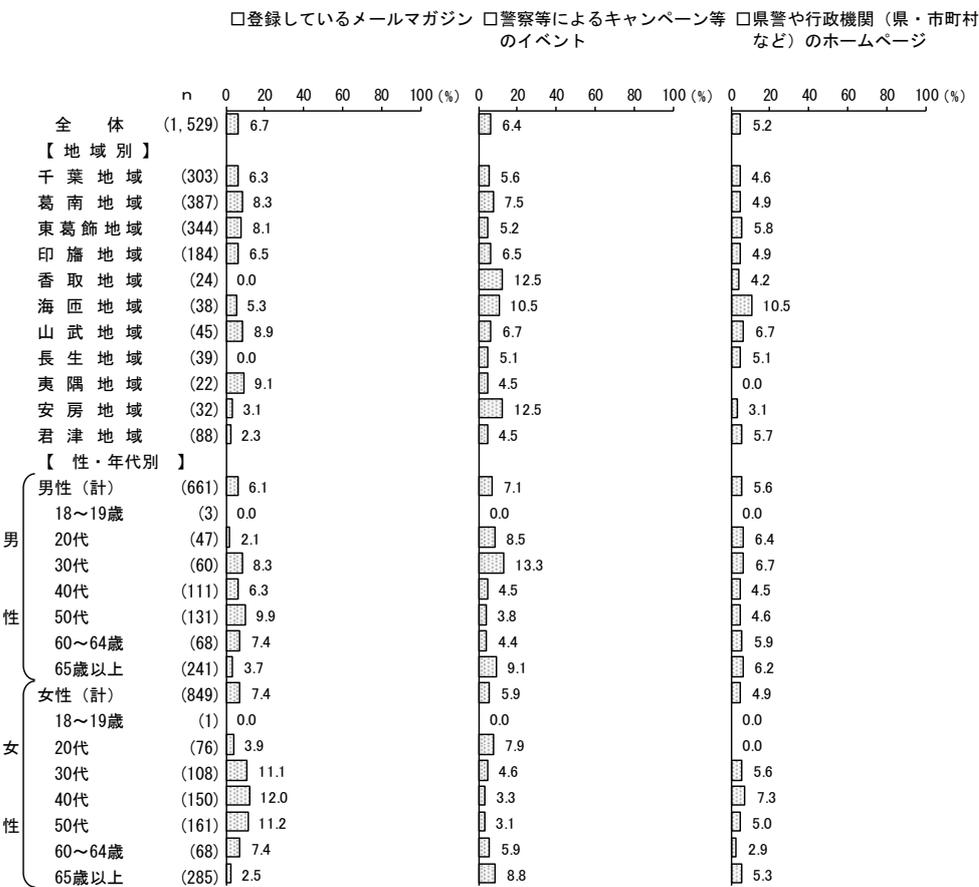
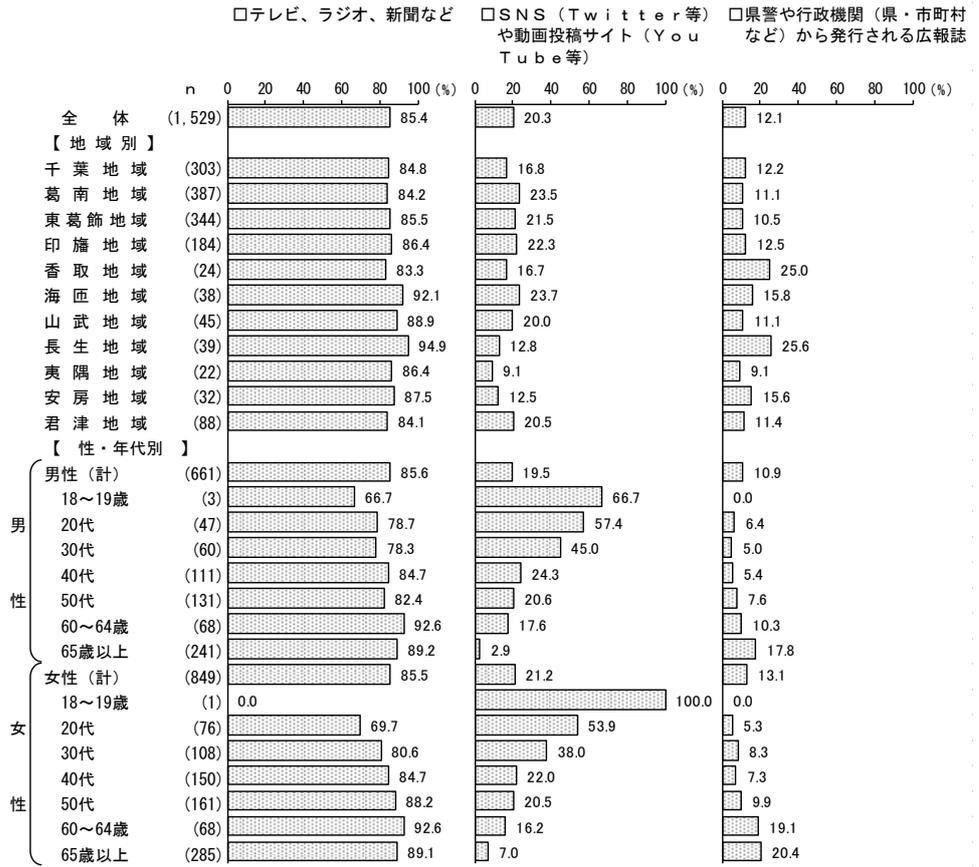
地域別にみると、「県警や行政機関 (県・市町村など) から発行される広報誌」は“長生地域”(25.6%)が2割台半ばで高くなっている。(図表8-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレビ、ラジオ、新聞など」は女性の65歳以上(89.1%)が約9割で高くなっている。

「SNS (Twitter等) や動画投稿サイト (YouTube等)」は男性の20代(57.4%)が約6割、女性の20代(53.9%)が5割台半ば、男性の30代(45.0%)が4割台半ば、女性の30代(38.0%)が約4割で高くなっている。(図表8-6)

＜図表8-6＞ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法／地域別、性・年代別

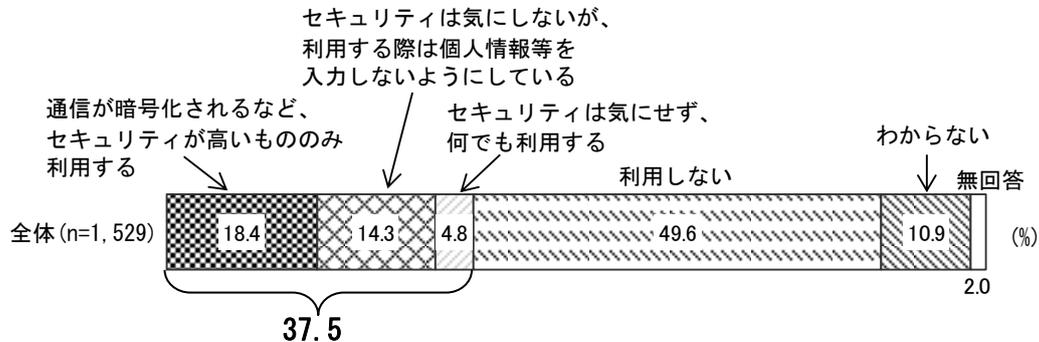


（４）Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況

◇「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」が約2割

問43 あなたは、飲食店、ホテル、空港などの街中に設置されているFree Wi-Fi（公衆無線LAN）を利用しますか。（○は1つ）

<図表8-7> Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況



Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況について聞いたところ、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」（18.4%）が約2割で最も高く、以下、「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」（14.3%）が続く。一方、「利用しない」（49.6%）は約5割となっている。（図表8-7）

【地域別】

地域別にみると、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」は“東葛飾地域”（22.4%）が2割を超えて高くなっている。

「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」は“印旛地域”（21.2%）が2割を超えて高くなっている。

一方、「利用しない」は“長生地域”（69.2%）が約7割で高くなっている。（図表8-8）

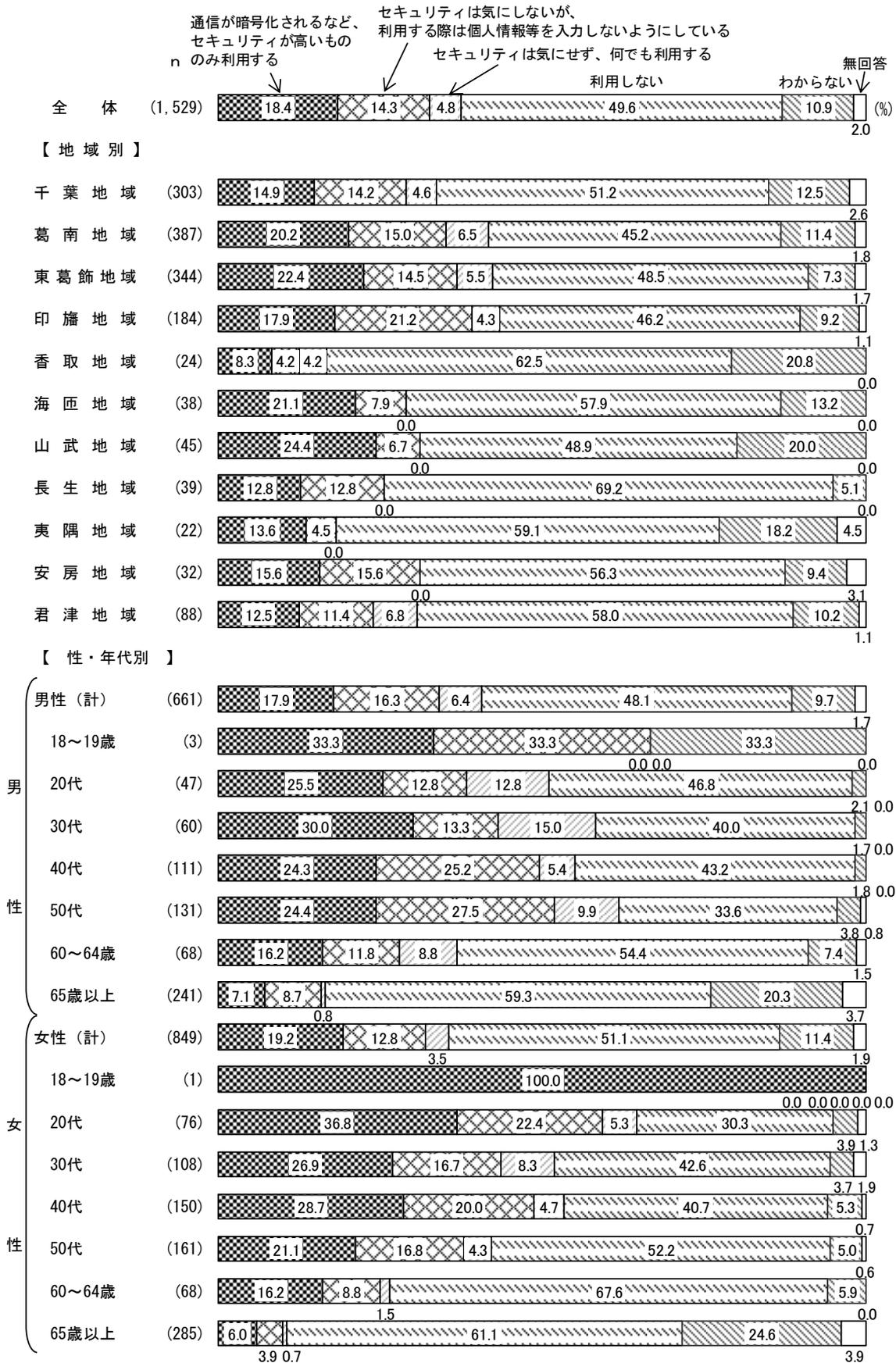
【性・年代別】

性・年代別にみると、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」は女性の20代（36.8%）が3割台半ば、男性の30代（30.0%）が3割、女性の40代（28.7%）が約3割、女性の30代（26.9%）が2割台半ばで高くなっている。

「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」は男性の50代（27.5%）が約3割、男性の40代（25.2%）が2割台半ば、女性の20代（22.4%）が2割を超え、女性の40代（20.0%）が2割で高くなっている。

一方、「利用しない」は女性の60～64歳（67.6%）が約7割、女性の65歳以上（61.1%）が6割を超え、男性の65歳以上（59.3%）が約6割で高くなっている。（図表8-8）

<図表8-8> Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況／地域別、性・年代別

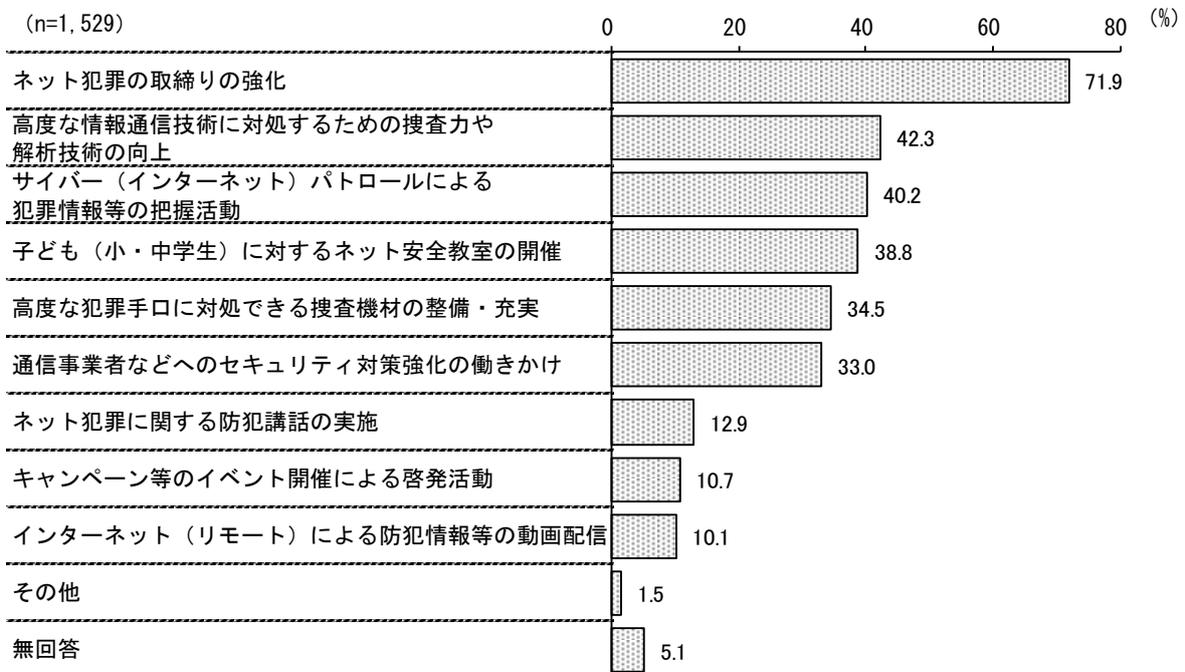


（5）インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動

◇「ネット犯罪の取締りの強化」が7割を超える

問44 あなたは、インターネット空間の安全確保に向けてどのような警察活動を期待しますか。
（○はいくつでも）

<図表8-9>インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動



インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動を聞いたところ、「ネット犯罪の取締りの強化」（71.9%）が7割を超えて最も高く、以下、「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」（42.3%）、「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」（40.2%）、「子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催」（38.8%）が続く。

（図表8-9）

【地域別】

地域別にみると、「ネット犯罪の取締りの強化」は“海匠地域”（86.8%）が8割台半ば、“東葛飾地域”（76.7%）が7割台半ばで高くなっている。

「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」は“葛南地域”（44.7%）が4割台半ばで高くなっている。

「子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催」は“香取地域”（58.3%）が約6割で高くなっている。（図表8-10）

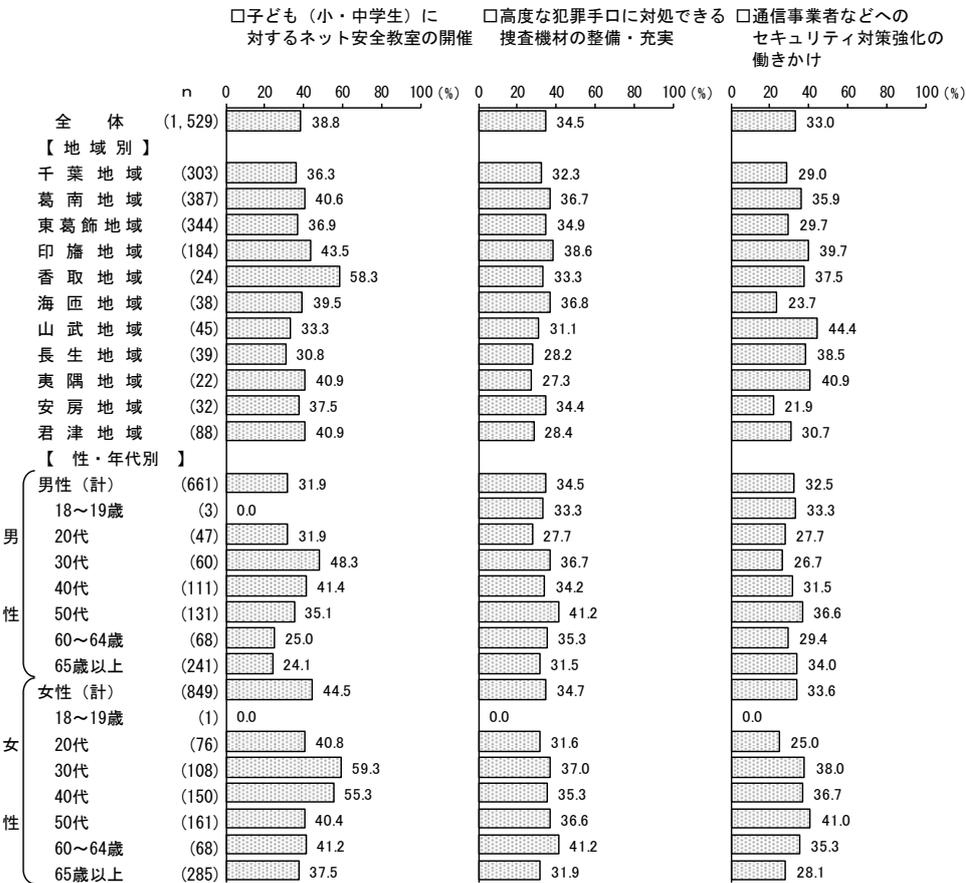
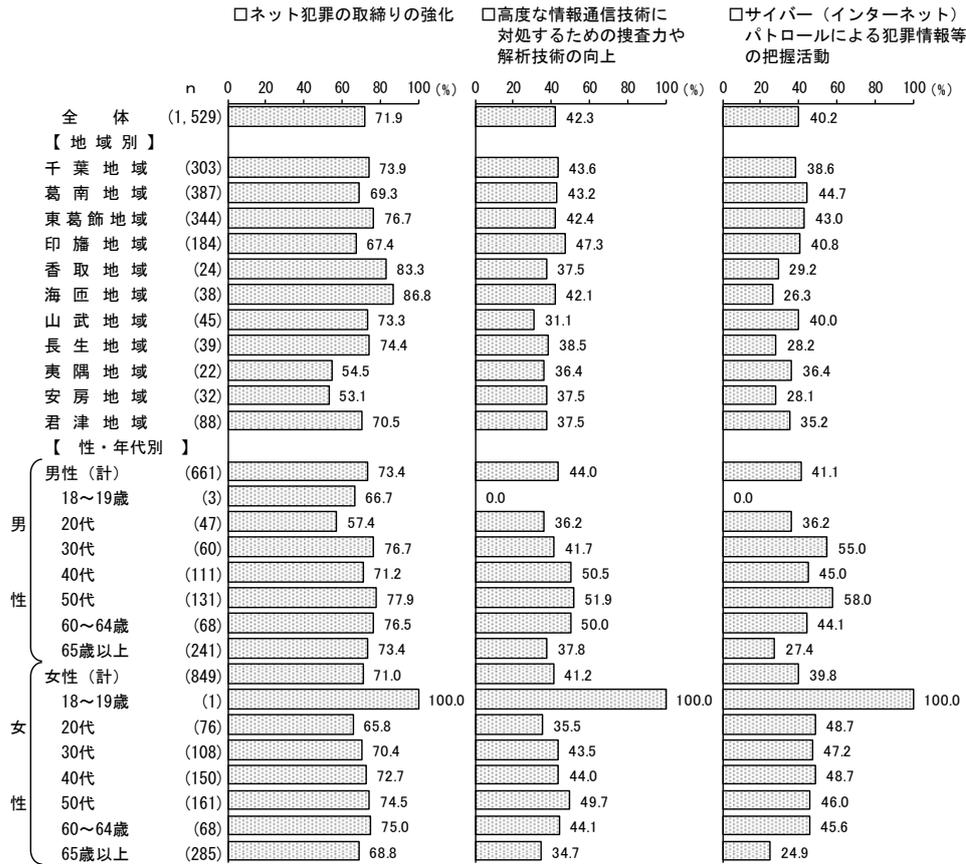
【性・年代別】

性・年代別にみると、「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」は男性の50代（51.9%）が5割を超え、女性の50代（49.7%）が約5割で高くなっている。

「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」は男性の50代（58.0%）が約6割、男性の30代（55.0%）が5割台半ば、女性の40代（48.7%）が約5割で高くなっている。

「子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催」は女性の30代（59.3%）が約6割、女性の40代（55.3%）が5割台半ばで高くなっている。（図表8-10）

<図表8-10>インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動／地域別、性・年代別



このほかに、「サイバー空間の安全対策について」やここまでの質問（問40～問44）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、62人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「サイバー空間の安全対策について」の自由回答（抜粋）

○日々スマホを使っている割に安全対策はソフトを入れているだけ。今回もアンケート調査と一緒に入っていたフリーWi-Fiの危険性を再認識しました。今後気を付けたいと思う。

（男性、50代、東葛飾地域）

○近年、未成年の子供がインターネットを利用することが増加傾向にあります。ゲームなどの利用規約を理解しないまま遊んだり、SNSやゲーム内チャット等で見知らぬ人に名前や住所などの個人情報教えてしまったり、勝手に課金したりすることが自分の知り合いにも起こっているので、警察の方からの児童向けの対策講義などをもっと行い、幼い頃からサイバー犯罪に対する知識を高めていくべきだと思います。特に小学生、中学生あたりに集中して「インターネットやオンラインゲームの怖いところ」を周知させるべきだと思います。

（女性、20代、印旛地域）

○警察だと身近に感じないので、小中学生への講義などではユーザーに依頼してみてもどうか。動画投稿やSNSでの身バレ対策、炎上対策（他者への配慮の仕方）など、学ぶことはたくさんあると思う。

（女性、20代、千葉地域）

○ネット犯罪は分かりにくいと思います。市民が理解しやすい啓発活動があると良いと思います。

（男性、40代、印旛地域）

○証拠がきちんと取れる悪質サイトについては、野放しにせず、アカウント停止命令できるような法改正が必要だと思います。

（男性、20代、印旛地域）

○子どもが巻き込まれる可能性が大きいので、フィルタリング等の法整備が必要と考える（年齢制限等）。

（男性、50代、長生地域）

○誹謗中傷などもきちんと取り締まってほしい。

（女性、30代、葛南地域）

○利用者自身注意することはもちろんですが、警察官や行政等の監視の強化が望まれます。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

○特に何も知らない子どもや若年層をどのようにして犯罪に巻き込まれないようにするのか、強い対策が望まれていると思います。

（男性、40代、千葉地域）